

つきのかげ

extrakaise

つきのかげ

影が見えたら、その先には太陽があるのかなあ。ほんとうにそうなの。空に輝く太陽が、あたしに光を与えてくれるのは確かなのにね。あたしは何処を見ているんだろうね。わかんないや、あはは・・・。

影を追うことで、また生まれていく。一瞬一瞬が再生の時なの。影を知らぬうちに追いかけている。憧れっていうのかなこういうのは。

空は夕刻のそれになり、あたしに訴えかけていた。手すりにもたれ掛かっていると北西のそらが見える。青とオレンジがせめぎあっている。空の声が聞こえるような気がした。静かに空が歌っているんだ。鼓動のようなメロディを。昼間は強すぎる光ゆえにかき消されているけれど。今は聞こえるね。しばらく聞いていると、涙が出てきた。眼を少し濡らす程度だったけれど、鼻の奥が訴えている。手すりを両手でしっかり握ると、膝の屈伸運動をする。それでも、空は少しずつ変化している。桜の花びらがあたしの前を掠めていく、春の嵐が少し。「さて、帰ろうかな」あたしは家に帰ることにした。帰って食事を取らないといけないしね。それに、空をずーっと見ていたら悲しくなるばかりだかんね。おいしいもの食べて元気になろうかな。

世界はね、あたしに微笑んでいるんだ。なんでかな、嬉しいことも悲しいことも自分のことと思ってしまうんだね。聞こえるのは世界の果てから聞こえる歌。だれかが奏でるメロディとともに。懐かしき思いを添えて、夢が飛んでくるんだね。光が溢れれば、そこに影がある。影ってどういうことなんだろう。影ってなんか、いいイメージないけどね。でも、それは違うのかな。だってさ、光があれば、影ができるのは当たり前だしね。何もなくて、光だけだったら、そりゃ影も出来ないでしょうけど、でもあたしはいるし、地球もあるし、影が出来る。月の満ち欠けも、地球の影を映しているだけだしね。楽しいことは、どんなことかな。感じる事が出来る事が楽しいことだろうね。実感がないと何にも楽しくないよね。いつも思うよ、感じる事がないと生きているっていうことは分からないねって。頭で考えても何も分からないかも、でも頭で考えることは生きることの基本だよな。たぶん、頭で考えることだけに固執すると分からないんだよね、体で感じたり、いろいろなことを合わせれば分かるんだろう、それが実感っていうことかな。世界の見方はいろいろある、それをあたしは分かっているのかな。ただ、意識はしているけど。

美しい世界、このせかいはうつくしい。あたしの手形残しておこうかな。この手すりにはあたしの手形が白くついてしまったね。たぶん、すぐ消えてしまうんだろうけど。

そう、せかいは春の夜の夢。

春の夜、何故か手のひらがむずむずしてこそばゆい。心も切なく、こそばゆい。見るもの全てがうつくしい。春の夜の月。雲にかくれしその光に、あたしは自分を重ねるの。見えないね。見えないよ。あなたの元に届けばいいのに、このこそばゆさが。そうすれば、あなたは何を思うのでしょうか。桜が綺麗に咲いていますよ。酒を一杯いかがですか。

そう一杯いかがですか。あたしは何も知らないですけど、お酒ぐらいは注いで差し上げることができますから。あたしは一人、月を見上げてお猪口を傾ける。一口飲めばもう満足。それ以上は、体に毒ですよ。だれかより手が綺麗なのがあたしの自慢。褒められるとうれしいね。でもあなたは、そんなところ褒めてくれないけど。

なんてね。空想に浸っているあたしの思考を裂くように、がらがらと木戸が開いて、おじいちゃんが帰ってきた。あたしは、台所にいて

「お帰りなさい」

といいながら、お猪口を洗ってしまう。

「ごはんすぐできるからね」

時間になると家族が集まってくる。おじいちゃんはず、ビールを一杯。それから、爛酒に進む。おとうさんの世話は母さんがするけど、おじいちゃんのお酒はあたしがだしてあげてるの、おじいちゃんあんまりしゃべらない。ほんとしゃべらないね。でも、お酌をしたら、すごく嬉しそう顔をしてくれるからね。食事の時は、もっぱら弟たちがわいわいしているね。なんか、今日あったこと全部話すくらい勢い。「今日なあ」から始まれば、終わらないね。でも、考えたらすごいことやな、兄弟みんな成人してるのに、一緒に晩御飯食べているっていうのは。ほんま嬉しいことやね。でも、今日はおじいちゃんと二人だけ、なんかみんな今日は忙しいみたい。

おじいちゃんに豆腐を出してみる。小皿と醤油、それに鰹節をつけて。豆腐を小皿にとると鰹節をかけて、その上に醤油をこれでもかかってくらいかけるのがおじいちゃんの食べ方。あたしも真似して、食べるけど。かあさんは「そんなにかけたら、からいやろ」といつも言っている。おいしいと思うけどなあ。分からんかなあ、この味が。おじいちゃんの得意な料理は、きゅうりの輪切りです。皮をむいて輪切りにしたきゅうりに味の素と醤油をかけただけ。お酒のあてに最適ですよ。暑い夏の日には畑から取ってきて器を一杯にします。あとね、缶詰。これは料理ではないですね。何か寄り合いみたいなのが開かれるときは、スーパーに缶詰を買いに行ってますね。焼き鳥の缶詰、貝の缶詰、鯖の缶詰、などね。買い物かごの中は缶詰だらけですよ。たまにあたしに焼き鳥の缶詰を買ってきてくれます。小さい頃から好きやったみたいで、おじいちゃんの上に乗りながら食べさせてもらってたらしいです。あたしは全く記憶にございませんけど。まあ、焼き鳥の缶詰は今でも好きですけど。爪楊枝で刺して食べるのがいいですね。箸は面倒ですから。爪楊枝で刺すと、油が固まってゼラチン質になっているから全部出てきたりするよ。味がまばらで、からかったりして。でも、おいちい。という具合かな。

「トガラシとってくれ」

おじいちゃんは豆腐の上に一味唐辛子をかけています。こりゃホンマにからいな。徳利にお酒をつけて、お酌をします。おじいちゃんは湯のみをもって、あたしはお猪口を持って。あんまり飲むなよとか、あたしに言うくせに、いつも飲み過ぎですね。なんかね、毎日ではないけれど、結構な割合で飲んでますよ。酒飲みの家系。

グーグーというよりはガーガーって感じのいびきが、テレビの音と共に聞こえてくるなかで、あたしは食事の後片付けをするんだ。ほんとさっきまで、起きてたはずなのに、一瞬で寝てしまおうんだね。あれはすごいよ。瞬間的に寝るのは、寝るのが分かっているんなら、テレビなんてつけなきゃいいのに。

おじいちゃんに頼まれて、朝から田んぼで働いている。石拾いをする。おじいちゃんは、田んぼの周りのぼーぼーに伸びた草を刈っている。あたしには、刈っているというより、なぎ倒しているみたいに見えるけど。あたしは、日焼け止めをしっかりと塗って、出勤する。しっかりしたビニールの肥料袋に拾った石を入れていく。草刈器のエンジン音が響いている。ビニールの手袋をはいて、石を拾う。つめが真黒になるのが気になるけれど、まあいいや。ちゃんと手入れすれば、なんとかなるし。両手を広げた範囲を目安に四角形の田んぼの端からあぜ道に沿ってまっすぐ進んでいる。端まで行けば、少し横に移動して引き返す。行って帰って一往復すると、あたしは休憩する。首に巻いたタオルを除けて、クーラーボックスに冷やしておいたペットボトルを当てる。ひんやり。中のお茶をぐぐっと飲んで、おじいちゃんを眺める。おじいちゃんは、黙々と作業を続けている。あたしは、あんなに働けないなあ。

太陽が高くなるのが分かる。あぜ道に寝転んでいたら。草の匂いがした。そういえば、小さな頃、あぜ道で寝たって、お母さんにも、おじいちゃんにも、何回も言われたな。そんな記憶全然ないのだけれど。稲刈り中に刈り取ったモミを入れた袋の上で寝たよ、って。麦藁帽子の間から、光が漏れてくるね。

草刈器のエンジン音が取まった。「あつついなあ」っていながら、汗をタオルで拭いている。ズボンに草の切れ端がバラバラとついているのが気になる。手で少しくらい払ったらいいのになんて思う。軽トラックの助手席から、水筒をとりだしてお茶を飲んでいる。あたしが生まれる前から使っているんだろうかと思うくらい、古びた水筒。山に行くときも、田んぼに行くときも、持っている。クーラーボックスの上に座って、山を眺めている。帽子をとったら、はげ頭に汗がかかっている。顔を拭いて、そのまま頭を拭く。一息ついたと思ったら、直ぐ立ち上がって、てくてく草陰まで歩いていった。帰ってきて、溝を流れる水で、ジャバジャバ手と顔を洗う。

続きの石拾いをする。大きいのを中心に。手のひらよりも大きいのはさすがに少し手ごわい。それより大きなのは、おじいちゃんに任す。持ってきた、一輪車を使って石を運んでいる。まあ、でもそんなに大きなのは無いかなあ。太陽が雲に入ると、優しい風が吹く。一通り、石を拾い終えたら、丁度昼になったみたいで、

「昼や、いのか」

って、おじいちゃん。軽トラックに、乗り込んで家まで帰る。軽トラックのギアチェンジは少し癖がある、なんだか硬い。いつも乗っている車と違うから、少しの違和感。窓を全開にした。風が気持ちいい。

家に帰ると、12時を少し過ぎたところ。おかあさんが、トマトを切っていた。すっごく冷えたトマト。下の弟は、いまさっき起きたところみたく、「おかん、お茶」って言っていた。「お茶くらい自分で入れ」って言われている。あたしを見つけると「ねえちゃんでもええで」って、いつものコップに並々とついでやった。「ねえちゃん、入れすぎ」。

おじいちゃんは、シャワーを浴びると、缶ビールを開けて飲んでいる。上半身裸。おかあさんが、切っていたトマトを食べている。おいしそう。おかあさんを、少し手伝う。テーブルに料理を並べるだけやけれど。そうこうしていると、お父さんが帰ってきた。今日は、上の弟は、朝から遊びに出かけていていない。

お昼を食べたら、昼寝をした。昼寝をすると、頭がボーっとする。ボーっとしたまま、学校に出かけた。少しだけ、勉強をした。書き上げたい論文があるんだ。

続く

まだ終わりではありません。

続きます。

あしからず。